

この本と私

読むことで、
書くことで、
気付く
判る

「リーダーになる人を知っておいてほしいこと」

松下幸之助著

松下政経塾は、世の中を変える人材を育成することを目的に、故松下幸之助氏が創設しました。現在では、卒業生が様々な場面で活躍しています。塾是の根本は、素直な心を持ち、体験することは全て勉強であり、事の本質を極め実行することにあります。これは、私たちの日常生活でも大切なことです。

松下氏は、小学校を中退し9歳で船場に奉公に入っています。毎日したことは、早朝の近所の掃除です。塾では掃除の大切さを強く説いています。性根を入れてやると、葉の落ち方で、木の健康状態がわかる、きれいになったのを気づいた人とは、縁が生まれるといったことがおこります。業績がいい企業で掃除が行き届いているのを見ると、大事を行うにも些細なことを続けていくことが大切であるとわかります。また、知識偏重は知識のぶつかり合いとなることから、体験を通して心で悟ったことを、心を白紙にして聞く姿勢が大切とも説いています。松下氏は、「人は互いに『飼い合い』をして生きている」といい、受け身になりがちな部下に対しても、「立場は同等なのだから遠慮なく発言するように」と、積極性を求めています。自分を外から観る自己観察は松下氏も行った自己観察法です。人がついてこないのは、自分に足りない事があると自戒し、自己研鑽に努めました。企業は人からなります。リーダーは、人の研究を怠ってはいけないことを教えられました。4月、新入社員が入ってきます。本書から、自分が変わる必要があることを学びました。

F. M.

〈松下政経塾〉

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞